

新たに利用する Python の機能 - ヒアドキュメント

"""(ダブルクオート 3 つ) もしくは'''(シングルクオート 3 つ) で文字列を囲うことで、入力された文章そのものの文字列オブジェクトを作ることができる。このような、文字列オブジェクト作成方法をヒアドキュメントと呼ぶ。図2.10に例を示す。この例では、6 行目の変数 `tanka` の表示結果から、囲った文字列をそのまま文字列オブジェクトにできていることが分かる。

```

1 user@hostname:~> python3 -i
2 >>> tanka = '''これやこの
3 ... 往くくもかへるも別れては
4 ... 知るも知らぬも逢坂の関'''
5 >>> tanka
6 'これやこの\n往くくもかへるも別れては\n知るも知らぬも
   逢坂の関'
```

図2.10: ヒアドキュメントの定義例

新たに利用する Python の機能 - 辞書型

Python には、連想配列が辞書型 (**dict 型**) として用意されている。連想配列とは、キーワード (キー) と値が紐付けられたデータ構造であり、キーワードをインデックスとして値を取り出すことができる。C 言語などの構造体と異なり、あらかじめオブジェクトが持つことができる型とその変数の名前を定義しておく必要はなく、自由に定義と追加が可能である。図2.11に利用例を示す。